

行動ファイナンスの可能性と限界

一橋大学 三隅隆司

行動ファイナンスの貢献の1つは、人間の金融行動に見られるさまざまな非合理的現象が人間の心理バイアスの存在に起因するものであることを、説得的な形で示してくれることにある。このような行動ファイナンスの知見は、心理バイアスの克服によって非合理的な結果を回避することができるという考え方を生む。事実、行動ファイナンスに関する書籍の中には、合理的な金融行動を実践するための克服法を提示しているものもある。

しかしながら、それらの克服法を実践することは容易ではない。人間の心理バイアスは、金融行動にとっては不都合かもしれないが、円滑な日常生活のためには必要なものであることが多いからである。

このような観点から、今回の報告では、行動ファイナンスが人間の金融行動を理解・説明する可能性を広げたことを評価する一方で、人間の金融行動に伴う非合理性を克服するという点では限界があるということを指摘したい。さらには、金融教育の設計あるいは金融システムの構築に対する行動ファイナンスの応用可能性についても考えてみたい。